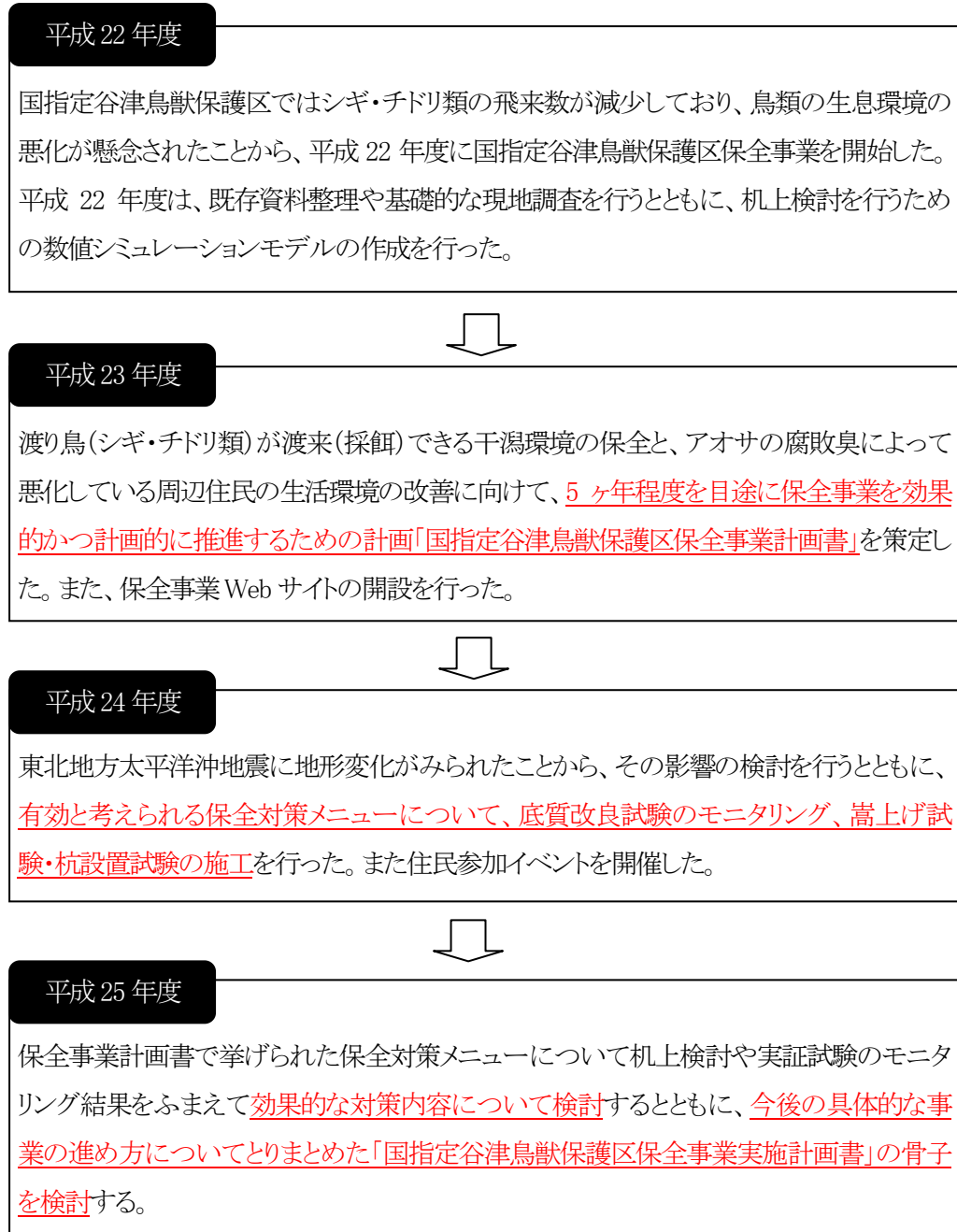


1. 実施計画書の位置づけ



2. 実施計画書の目次構成

- 事業の透明性や事業評価が求められることから、事業目的に対応した目標(評価基準)、評価方法、評価時期を予め決める。
- 事業の計画性を高めるため、計画の進捗確認や事業を評価する時期と場(委員会等)を予め決める。

実施計画書の目次構成と記載内容

目次案		記載が望まれる内容
事業目的と基本的な考え方		<ul style="list-style-type: none"> ・ 既往計画(保全事業計画)との関係を明示する。 ・ 事業実施の基本的な考え方を記載する。
事業内容	有効な対策メニュー 効果的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証試験結果等をもとに有効な対策メニューを選定あわせて住民が参加しやすい対策メニューも選定 ・ 効果的な事業内容(場所・時期・工法等)を検討
	事業の実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民が参加しやすい活動内容を積極的に採用 ・ 関係機関が継続的に支援可能な内容が望ましい。 ・ 不測の事態が生じた場合に修正可能な方法とする。
モニタリング計画	モニタリング方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の施設・活動や住民が参加しやすい方法を積極的に採用 ・ 行政が継続的に支援可能な内容が望ましい。
	結果整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果の整理・比較方法も予め決めておく。
事業の評価方法	事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全事業計画の保全目標との整合を図る。
	事業の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価基準と評価方法を予め決めておく。
スケジュール	スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概略スケジュール(年単位)と詳細スケジュール(月単位)を両方作成
	進捗確認・事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会など評価する時期と場を決める。
実施体制・役割分担		<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者が適切な役割分担を行う。 ・ 既存の施設・活動を活かしつつ、事業費など実現性を含めて検討

(参考)保全事業計画書の目次



目次構成	
1.谷津干潟の概要	(1)谷津干潟の特徴/(2)指定・登録状況/(3)調査・検討の経緯
2.保全事業	(1)国指定谷津鳥獣保護区の重要性/(2)環境変化と今後想定される変化/(3)保全事業の必要性
3.保全方針	(1)望ましい姿と保全対象/(2)保全目標/(3)保全の考え方
4.保全対策	(1)保全上の課題/(2)課題の優先度/(3)対策メニューの抽出/(4)対策案の比較・検討/(5)保全対策の具体化
5.保全事業の進め方	(1)保全事業の流れ/(2)保全に向けた取り組み/(3)スケジュール/(4)実施体制
参考資料	これまでの出来事/空中写真の変遷/収集資料一覧/環境の変遷/インパクトレスポンスフロー

3. 今年度の作業と来年度の作業

- 今年度は、事業の基本的な内容(対策メニュー・実施方法等)を検討するとともに、来年度に決める必要のある事項を抽出することが重要である。
- 今年度は事業内容の検討、来年度は事業の進め方の検討が中心となる。

今年度の作業と来年度の作業

目次案		記載が望まれる内容	今年度の来年度の区分	
			今年度	来年度
事業目的と基本的な考え方		<ul style="list-style-type: none"> ● 既往計画(保全事業計画)との関係を明示する。 ● 事業実施の基本的な考え方を記載する。 	●	○
事業内容	有効な対策メニュー 効果的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民が参加しやすい対策メニューも選定 ● 実証試験結果等をもとに事業内容を検討 	●	○ (一部)
	事業の実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民が参加しやすい活動内容 ● 行政が継続的に支援可能な内容 ● 不測の事態が生じた場合に修正可能な方法 	●	○ (堆積物除去)
モニタリング計画	モニタリング方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民が参加しやすいモニタリング方法 ● 行政が継続的に支援可能な内容 	●	○
	結果整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 結果の整理・比較方法も予め決めておく。 	●	○
事業の評価方法	事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 保全事業計画の保全目標との整合 	○	●
	事業の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価基準と評価方法を予め決めておく。 	○	●
スケジュール	スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ● 概略スケジュール(年単位)と詳細スケジュール(月単位)を両方作成 	○	●
	進捗確認・事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員会など評価する時期と場を決める。 	○	●
実施体制・役割分担		<ul style="list-style-type: none"> ● 関係者が適切な役割分担を行う。 ● 既存の施設・活動を活かしつつ、事業費など実現性を含めて検討 	○	●

●: 中心的な検討を行う項目、○: 予備・補足的な検討を行う項目

4. 実施計画書の作り方

- 既往計画(保全事業計画)との整合を図る。
- イベント時のアンケート結果、報告会での意見等で出された地域の想いを参考に、住民と認識や目標を共有し、地域と一緒に計画をつくり上げていくスタンスとする。
- 事業に参加する関係者が集まる場(協議会等)を立ち上げるなど、実施体制・役割分担を明確化

(具体的な方法の例)

- 検討会等において関係機関の考えを聞く。
- イベントにおいて事業目的・基本的な考え方を伝える。
- イベント・報告会において事業推進にあたっての課題について住民等からの意見を聞く。

5. 保全事業の進め方

- 順応的管理の考え方に従い、実証試験を規模拡大しながら事業化を図る段階的な進め方とする。
- スケジュールをできるだけ具体化する。
- 見直しを含めた柔軟性のある計画とする。
- 予想通りにならない場合を広く想定し、予め対応を決めておく。

(具体的な方法の例)

- 検討会等において関係機関の考えを聞く。
- イベントにおいて事業メニューのうち住民参加が可能な事業活動を実践してみる。
- イベント・Web サイトを活用して事業メニューのうち住民参加が可能なモニタリングを試行する。

6. (参考)保全対策メニューと対応状況

- 科学的データと専門家の助言をふまえ、効率的な対策工法・モニタリング手法を選定する。
- 住民等が参加しやすい対策メニューやモニタリング手法を採用
- 自然の営力(潮汐流)を活かした対策メニューや、自動観測機器を用いたモニタリング手法など、労力やコストのかからない方法を採用する。

保全計画書で策定した保全対策メニューへの対応状況

保全対象	保全上の課題		優先度	想定される要因	対策メニュー	比較・検討の視点					
						範囲	時期	対応状況	効果・影響・持続性	実現性・留意点	
シギ・チドリ類の採餌環境	採餌場の減少	(西側)地盤高低下(窪地化)	高い (中長期的な対応が必要)	(西側)埋立工事で堆積した泥の流出	【窪地部】嵩上げ(土砂投入)	恒常的	西側	机上検討	嵩上げ材が流出する可能性	嵩上げ材の確保	
		(西側)排水障害(下げ潮時)		【西側の流路】堆積物(貝殻等)除去☆	机上検討 実証試験③(西側流路の堆積物除去)を検討中			干出面積・干出時間が増加			
(全域)地盤高低下		【全域】嵩上げ		机上検討	干出面積・干出時間が増加			嵩上げ材の確保 施工方法			
餌量の質変化		(全域)底生生物相の変化(ゴカイ類からゴカイ類・貝類へ)	高い (中長期的な対応が必要)	(全域)閉鎖性水域	【東側・西側】外来性貝類の採取★	全域	東側・西側		効果は限定的		
				(全域)泥の流出に伴う泥分減少(砂質化)	【東側】底質改良(泥投入)			東側	実証試験①(底質改良)を検討中	底質改良による底生生物相の変化はみられない	アオサの堆積を回避しない限り、効果が期待できない可能性
				(全域)アオサの堆積・腐敗に伴う表層の嫌気化	【全域】アオサ回収・分散☆				環境省が市民団体に委託して実施中	効果は局所・一時的	継続的な対策が必要
					【全域】アオサの干出・分散の促進					【東側】アオサの干出・分散の促進	【西側・東側の流路】堆積物(貝殻等)除去☆
周辺民生環境	悪臭発生	(バラ園南東側)アオサの腐敗臭	特に高い (短期的な対応が可能)	(中央)アオサの堆積・腐敗	【中央】アオサ回収・分散☆	特に夏季	中央	環境省が市民団体に委託して実施中	効果は局所・一時的	継続的な対策が必要	
					【中央】アオサの干出・分散の促進			【中央】嵩上げ	環境省が市民団体に委託して実施中	効果は局所・一時的	嵩上げ材の確保 施工方法
					【東側】アオサの干出・分散の促進			【東側】アオサの干出・分散の促進	環境省が市民団体に委託して実施中	効果は局所・一時的	継続的な対策が必要
				【西側・東側の流路】堆積物(貝殻等)除去☆	机上検討 実証試験③(西側流路の堆積物除去)を検討中			干潟内の流速増加(アオサ分散効果)は小さいが、干出面積・時間の増加(アオサ抑制)が期待できる。			
(バラ園南東側)アオサの集積・吹き寄せ	【バラ園南東側】嵩上げ・杭等の設置☆	バラ園南東側	実証試験②(嵩上げ・杭設置)を実施中	アオサの堆積・腐敗が低減							

★:住民参加による参加・共同を想定したメニュー / ☆:一部で住民による参加・協働が可能な対策メニュー